

# 令和8年度農作物病虫害発生予察技術資料第6号

令和8年(2026年)8月18日  
山口県病虫害防除所

## ダイズ・野菜類のハスモンヨトウの防除の徹底について

ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が多いため、ほ場の発生状況に注意し、防除対策を徹底してください。

### 1 発生状況

- (1) ハスモンヨトウの県内5カ所のフェロモントラップによる誘殺数合計（7月11日～8月10日）は、5,276頭（平成2,991頭）で平年に比べ多かった(表1)。
- (2) ハスモンヨトウのフェロモントラップによると、8月下旬及び9月上旬に次世代成虫の発生が増加すると考えられる（図1）。
- (3) 福岡管区地方気象台の8月13日発表の一个月予報では、気温は高く、発生が助長されると考えられる。

### 2 防除対策

- (1) 卵塊（黄褐色の毛で覆われている：写真参照）や若齢幼虫が集中した葉を見つけた場合は、すみやかに捕殺する。
- (2) ダイズでは、葉に卵塊で産卵し、ふ化した若齢幼虫が葉を食害することで白変葉を生じるので、ほ場の見回り等により、白変葉の発生を目安に薬剤散布を行う。
- (3) ダイズにおける防除の目安は、葉の白変か所数が1a当たり5か所以上である。
- (4) 野菜類では、育苗期後半のセルトレイへの薬剤処理や、定植時の植穴・株元への粒剤処理で予防防除を行う。
- (5) 施設栽培では、防虫ネット（4mm目以下）等の使用により成虫の侵入及び産卵を防ぐ。
- (6) 施設栽培では、防蛾灯（黄色灯、緑色LED等）の夜間点灯が成虫の侵入防止対策として有効である。

### 3 防除上注意すべき事項

- (1) 中齢から老齢幼虫は薬剤の効果が低下するため、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- (2) 発生量は地域やほ場によりばらつきがあることから、ほ場をよく観察し、防除適期を逃さないよう注意する。
- (3) ハウスの鉄骨パイプ、防虫ネット等にも産卵することがあるので注意する。
- (4) 多くの薬剤に抵抗性が発達しているため、散布後には効果を確認するとともに、同一系統薬剤の連用は避ける。  
薬剤感受性検定結果  
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/224146.pdf>
- (5) 薬剤散布の際は、農薬使用基準を遵守し、周辺作物への飛散を防止するとともにミツバチ等に危害を及ぼすことがないように十分注意する。

表1 フェロモントラップでの誘殺数（頭）

| 地点    | 本年    | 平年  |
|-------|-------|-----|
| 周南市熊毛 | 2,244 | 793 |
| 山口市阿東 | 373   | 535 |
| 萩市明木  | 79    | 83  |
| 下関市清末 | 1,236 | 674 |
| 柳井市伊陸 | 1,344 | 906 |

※ 7月11日～8月10日の合計

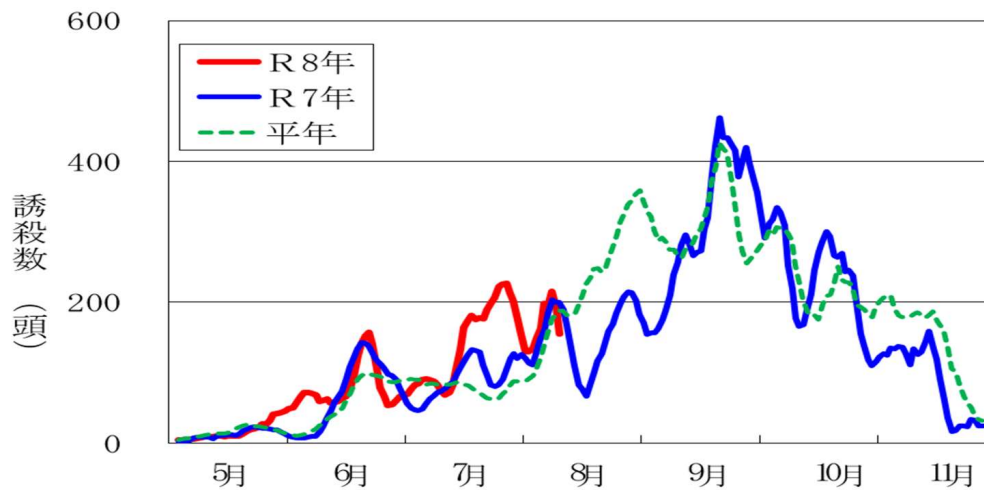
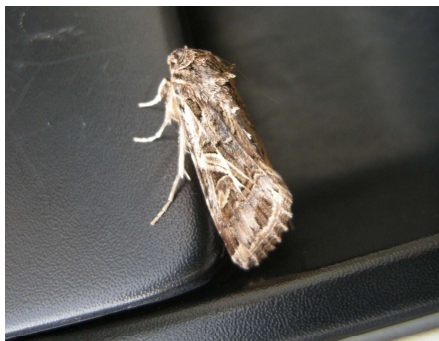


図1 フェロモントラップにおける誘殺数の推移（県内5カ所合計）



成 虫



幼 虫



大豆の白変葉



卵 塊